

2016年度医学系研究科公共健康医学専攻  
課題研究論文提出要項

1. 提出書類

(1) 課題研究論文及び論文抄録

以下に記載した要領で作成すること。いずれも、表紙、製本は不要である。

(2) 提出期限

2016年12月16日(金)の午後5時までに大学院係へ提出すること(課題研究論文3部、抄録1部)。その際、ホッチキス止めはせず、1部ずつクリアファイルに入れること。

併せて、課題研究論文および抄録をPDFファイルにしたものを大学院係( [in@m.u-tokyo.ac.jp](mailto:in@m.u-tokyo.ac.jp) ) に送付すること。なお、ファイルの名称を、「ronbunSPH学生証番号(8桁のもの).pdf」「shorokuSPH学生証番号(8桁のもの).pdf」とすること(すべて半角英数字)。

2. 課題研究論文

(1) 論文の内容は、公共健康医学にかかわる原著、公衆衛生活動報告、システム開発・評価、文献レビュー、その他とする。

(2) 使用する言語は、日本語または英語とする。

(3) ワードプロセッサを用いて作成する。

(4) 用紙はA4サイズを縦に用い、文字の配列は横書きとし、片面にのみ印字する。各頁、上下左右の余白は、25mm以上とすること。

(5) 日本語の場合、本文及び文献は1頁1500字程度(1行40文字程度、1頁35~40行程度)とする。原則として、文字フォントは10.5~11ポイントの明朝体とするが、見出し、図表の題などにゴシック体や太字・下線などを用いてもよい。1段組で作成する。

(6) 英文の場合、本文及び文献はTimes New Roman または Century の10.5~12ポイントのフォントを用いる。行間はシングルスペース、1頁に40行程度(約500 words)とする。見出し、図表の題などに他のフォントや太字・下線などを用いてもよい。1段組で作成する。

(7) パラグラフの開始行は文頭を、日本語では1文字下げ2文字目から、英文では5文字下げ6文字目から記述する。

(8) 構成

論文は、1頁目に、和文論文題目、英文論文題目(英文論文の場合はこの逆の順)、学生氏名、指導教員氏名、所属名(東京大学大学院医学系研究科公共健康医学専攻)(分野名を加えてもよい)、要約(抄

録と同じでよい)の順で記載し、本文を書き始めること(見本参照)。

本文の書き方に特に制約はないが、適宜、小見出し等を付し、全体の構成を分かりやすくするように工夫すること。実証研究に準じたものは、緒言(Introduction)、方法(Method)、結果(Results)、考察(Discussion)、結論(Conclusion)、引用文献(References)の順で記載してもよい。セクション毎に頁を改める必要はない。

図表は引用文献の後に掲載すること。同じ頁に複数の図表を入れて構わない(図表毎に頁を改める必要はない)。必要に応じて、付録(appendix)を付けてもよい。

なお、各頁の下中央に頁番号を付すこと。

#### (9) 引用文献

引用様式や文献リスト様式は、もっとも関連する分野の慣例に従ってよいが、論文を通して一貫した様式を用いること。

(10) 頁数の目安は、文献及び図表も含めて、6~10頁程度とするが、冗長とにならないようにすること。付録は頁数に含めない。なお、上記の範囲に収まらない場合、指導教員と相談の上であれば、制限を超過しても構わない。

(11) 上記以外の内容については、適宜、指導教員と相談すること。

### 3. 論文抄録

(1) 課題研究論文(本文)の最初に記載する要約と同じ内容のものを抄録として、別途提出すること。提出されたものを大学院係で編集し、抄録集を作成する。抄録集は公共健康医学専攻の学生及び教員全員に配付する。

(2) 抄録の体裁は、課題研究論文に準じるが、A4サイズ1枚に収めること。抄録には、頁番号を入れな  
いこと。

(3) 日本語論文については800字程度、英語論文については250語程度に収めること。

### 4. 発表会

(1) 日程 2017年1月6日(金)午前9時より

(2) 場所 医学部教育研究棟13F 第6セミナー室

(3) 発表方法 持ち時間20分(発表10分、質疑応答・討論8分、準備・交代作業2分)  
なお、質疑応答・討論には学生及び教員(指導教員を除く)全員が参加できる。

(4) 注意事項

- ・発表は聞く側のことを考えてわかりやすく行うこと。
- ・パソコンを用いた液晶プロジェクターによる発表を原則とする。  
ただし、静止画像のみとし、アニメーションは認めない。発表に必須の場合には、

指導教員が承認した場合に限り、動画等の使用を許可する場合がある。

- ・文字・図表は後ろの席からも見えるように明瞭、簡潔に作成すること。
- ・最後のスライドで当該研究における自らの貢献内容について示すこと。

(5) リハーサル 前日（1月5日（木））の指定された時間に、発表で使用するパワーポイント等のファイルを専攻で用意するパソコンにインストールし、リハーサルを実施しておくこと。

(6) 評価の基準 課題研究の評価は以下の基準を総合して行う。

1. テーマの新規性・独創性・実用性・有用性
2. 論理的（科学的）な思考能力
3. 方法（アプローチ）の妥当性
4. 結論の implication・テーマの発展性
5. プレゼンテーション・質疑応答能力
6. 本人の貢献度
7. 文章・図表の完成度

(7) 審査委員 指導教員及び2名の査読委員を含む発表を聞いた全教員（講師以上）の評価を総合して行う。最終判定は合・否で行う。

#### 5. その他（注意事項）

一度、大学院係に提出された「課題研究論文」及びそのPDFファイル、「論文抄録」の差し替えは一切認めないので、提出する際には十分に確認してから提出すること。

(課題研究論文見本：下記の要領で上に詰めて記載すること)

(論文抄録見本：下記の要領で頁中央に記載すること)

東京大学における公衆衛生大学院の概要について  
Outline of University of Tokyo School of Public Health

文京 花子  
Hanako Bunkyo

指導教員：東京 太郎  
Tutor: Professor Taro Tokyo

東京大学大学院医学系研究科公共健康医学専攻  
School of Public Health, Graduate School of Medicine, The University of Tokyo

急速に進行する少子高齢化、地方分権、突発的な新興・再興感染症やバイオテロの発生、労働現場における過労死・自殺等の増加、医療事故や医療経営環境悪化などの現代的問題への対応は、わが国の公衆衛生分野の喫緊の課題になっている。本専門職大学院では、このような公衆衛生上の課題に対応するため、人間集団の健康を対象にした分析手法を身につけ、保健医療に関わる社会制度を体系的に理解し、政策立案・マネジメント能力に優れたパブリックヘルス・マインドをもった高度専門職業人の養成を目的とした教育を行う。カリキュラムは、疫学、生物統計学、臨床疫学、保健医療経済学、医療コミュニケーション学、精神保健学、健康社会学、老年社会科学、医療倫理学、健康医療政策学、医療情報システム学、法医学・医事法学、医療安全管理学、健康危機管理学、環境健康医学などから構成され、この中から必修科目及び選択科目併せて30単位以上修得することで、公衆衛生学修士（専門職）の学位を修得することができる。

(課題研究論文については、要約記載後、2~3行空けた位置から本文を書き始めること。頁を改める必要はない。)